



秋の野に 咲きたる花を 指折り(およびをり)
かき数ふれば 七種(ななくさ)の花

萩の花 尾花葛花 なでしこの花
をみなへし また藤袴 朝顔(桔梗)の花

9月の万葉集 巻8-1537、1538 山上憶良
(秋の野に咲いている花を指折って数を数えれば
次の七種類の花が美しい)

秋の七草:萩(ハギ)、尾花(ススキ)、葛(クズ)、
撫子(ナデシコ)、女郎花(オミナエシ)、
藤袴(フジバカマ)、朝顔(キキョウ)



信じることの大切さ!

今年の夏は猛暑日続きの異常な暑さでした。気象庁は9月1日に今夏(6~8月)の全国の平均気温が1898年の統計開始以来最高だったと発表しました。平年より1.76度高く、これまで最も高かった2010年(平年比プラス1.08度)を大きく上回ったようです。ただし、奈良県では、観測史上、平均気温が一番高かったのは2020年で今年は2番目と言うことです。

学校園では、8月25日(金)に2学期がスタートし、真っ黒に日焼けした子どもたちの笑顔がまぶしかったようです。2学期は運動会や体育大会、遠足や校外学習、修学旅行、そして文化鑑賞会など、1年を通じてもっとも行事が多い時期です。新型コロナウイルス感染症も2類から5類になり、ほとんどの学校園行事も規制なく行われるようです。私はいつも思っていることですが、この学校園行事で、子どもたち一人一人が主人公となり、様々な経験・体験をする中で「練習などをして、自分がんばれた、やり遂げられた」とか「みんなと一緒に、やりきることができた」などの達成感・成就感を得ることができた時、そこには必ず自尊心や自己肯定感が高まると思っています。日々の学習も大切ですが、仲間とともに汗をかくて成し遂げる取組は子どもたちにとって、必ず大切な思い出になると思います。

ところで、8月25日(金)に開幕したバスケットボールのワールドカップ2023では、アカツキジャパンが快進撃で見事、パリオリンピックの出場権を48年ぶりに自力で獲得しました。私は、中学・高校・大学、そして一般として40歳までバスケットボールに打ち込むと同時に教員時代は、小学校のミニバス、中学校のバスケットボール部の顧問として子どもたちにバスケットを教えてきました。それだけに人一倍バスケットボールへの思い入れが強く、今回のワールドカップの中継放送ではテレビの前で釘付けになって観戦していました。第1次ラウンドではヨーロッパ勢に勝ったこ



とがない日本がフィンランドを下し、順位決定戦ではベネズエラを、そしてカーボベルデといずれも難敵を次々と撃破し、17位~32位決定戦で19位となり、パリオリンピックの出場権を獲得し、その快挙に日本全体が熱狂しました。

アカツキジャパンのこの快進撃の背景には、国際舞台では勝てないとされてきた日本を「勝てるチーム」へと前進させたトム・ホーバスヘッドコーチの存在があります。東京オリンピックで女子日本代表のヘッドコーチとしてチームを史上初の銀メダル獲得に導いた手腕をかわれ、2021年にバスケットボール男子日本代表のヘッドコーチに就任されました。

男子チームにおいても、身長で不利な日本が世界で勝つためには、次々に放つ3点シュートと速さを活かした攻撃、そして前から積極的に仕掛ける守備というスタイルは女子のコーチ時代と変わらなかったようです。ただ、女子もそうだったように、男子の選手たちも当初は自信が欠けているように見えたそうです。そのためホーバスヘッドコーチは、「結構しつこく言っているんです。『信じてください、信じて、信じて』って」と常に、練習中、試合中、時には記者会見の最中にも、語りかけることをやめなかったそうです。

そして、日頃から「みんなが信じれば、それは実現できます。信じています」と語りかけて、一人一人に自信を植え付けてこられたそうです。また、「僕は無理なことをコーチングしない。ダンクでき



ない選手に『ダンクやって』とは言わない。できることをコーチングする。だから僕は『信じてください』(と言う)」「人」が「言う」と書いて「信じる」と漢字の成り立ちからも考えて、一人一人の持っている力、そしてチームの力を「信じてください」と言われています。男子日本代表チームが、パリオリンピックの出場権を掴んだ背景には、ホーバスヘッドコーチの選手に対する熱い想いの中で「信じる」というキーワードがありました。

学校園でも、地域社会でも、一般社会でも人が生きていく上でもっとも大切なものが「信じること」であり、行動すること、努力すること、そして続けることにもつながるように思います。

今月の一言

他人の言葉がどうこうじゃなくて、ことわざにあるように、「自分の馬を信じろ」ということだ。自分が自分を信じてなかったら、誰が自分を信じるんだ？

イビチャ・オシム(サッカー日本代表監督)

教育委員会の取組

子ども将棋大会を開催しました！

8月20日、子どもたちにとって夏休み最後の日曜日に、第14回広陵町子ども将棋大会を中央公民館大会議室で開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、この将棋大会も4年ぶりの開催となりました。上級者の部が、9名でトーナメント方式で、初心者の部が8名の参加でリーグ戦方式で行われました。

この将棋大会には、大会運営に協力していただく広陵将棋会の池川会長をはじめ、将棋会の皆さんに多数お手伝いをしていただきました。また、大会全体を指導していただく講師に、日本将棋連盟の増田六段も来ていただきました。



対戦が始まると、上級者の部は真剣そのもので、互いに相手の一手一手を先読みしながら、駒の取り合いに一喜一憂していました。初心者の部では、将棋会の皆さんに少しアドバイスをもらいながら、一局対戦するごとに上達して将棋の楽しさを

満喫していました。また、対戦を待っている時間の子どもたちは、増田六段から5～6人同时对戦形式で駒の差し方や相手の手の読み方等を懇切丁寧に教えてもらっていました。この大会の中で、第2、第3の藤井聡太7冠のような棋士が育ってほしいと思いました。

コミュニティ・スクール研修会を実施！

昨年に引き続いて、地域と学校の連携・協働活動のための広陵町コミュニティ・スクール研修会を8月21日(月)に実施しました。各学校において、学校運営協議会の中心となる地域コーディネーターや学校関係者の資質向上を図るとともに、意見交流の場としての研修でした。奈良市の富雄中学校区地域教育協議会総合コーディネーターで、奈良県のCS(コミュニティ・スクール)アドバイザーである新谷明美氏を講師にお招きし、ミニ熟議の体験指導と講演をしていただきました。

ミニ熟議体験では、参加者が別々になるように7つのグループに別れ、まずは一人一人が自己紹介した後、「あいさつ」をテーマに新谷先生から、「今まででうれしく感じたあいさつ、残念なあいさつを一人1分ずつくらいで話してください」という問いかけで熟議が始まりました。そこから、次に「あいさつの難しさとは」という問いに対し、個々のいくつかの考えを付箋に書き留め、グループ内での様々な意見交流となり熟議が盛り上がっていました。



その後、それぞれが書いた付箋を内容ごとに社会・学校・家庭

・友人やプラス・マイナスなどに類型化し、最後にそれぞれのグループの代表者が話し合った内容について発表しました。わずか1時間の熟議体験でしたが、参加されたすべての方々は満面の笑顔で有意義なひとときを過ごされたようでした。

その後は、新谷先生から「地域とともにある学校」とは～子どもたちの学びと育ちに地域が関わることの意味～と題して講演いただきました。特に印象に残ったこととして学校運営協議会(コミュニティ・スクール)〔組織〕と地域学校協働活動〔機能〕が車の両輪となり、それぞれの役割が明確で、情報・人材がうまく連動している状態が「地域とともにある学校」となるということでした。

この研修を通して、参加された皆さんは熟議の大切さと地域との連携・協働による「地域とともにある学校」の取組の重要性が理解できたと思います。

教育講演会を開催しました！

8月29日(火)、教育講演会を教育委員、社会教育委員、小中学校・幼稚園・こども園の教員の皆さん、保護者の皆さんを対象にかくや姫ホールで開催しました。今年度は、「不登校支援について考える」と題して、天理大学大学院臨床人間学研究科教授の千原雅代先生に講演をしていただきました。私が感じている一番の広陵町教育課題は、特別支援教育の充実と不登校問題で、特に不登校児童生徒がここ最近急増していることです。千原先生は、スクールカウンセラーとして第一線で活躍され、大和郡山市の学科指導教室ASUの立ち上げから、運営面まで幅広く関わっておられます。先生のこれまでの豊富な教育実践と研究に基づいた講演をお聴きし、今後の各校園の不登校支援に活かしてほしいと考え開催しました。



講演の内容は、近年増え続けている不登校の現状や特徴、不登校支援の目標、他者理解の視点、地域社会と連携した不登校支援など、先生がこれまで関わってこられた一人一人の子どもやその保護者とのカウンセリングの数多くの事例紹介、研究と理論による支援の方法など懇切丁寧に教えていただきました。特に先生が強調されていた、「不登校に陥った時に、まずはとても難しいことだが、子どもや保護者に寄り添う共感的理解による支援をしなければ解決しない」という言葉が印象に残りました。

真美ヶ丘第二小学校から

真美二ギャラリー開催

8月28日に真美二ギャラリー(校内作品展)を開催しました。真美二ギャラリーは、夏休み中に子どもたちが制作した作品の校内作品展です。今年度は子どもたちだけでなく、保護者の方や地域の方も招待して作品展を行いました。100名近くの方が来校してくださいました。

